

河川の歴史・文化を活用した越谷市の景観まちづくりに関する研究
—越谷市史からみた河川・用排水路の歴史の変遷—

A Study on Landscape Planning Using the History and Culture of River in Koshigaya
About the history of river in Koshigaya

○馬上和祥¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 清水亜紀人⁴
Kazuyoshi Magami¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³ and Akito Shimizu⁴

Abstract: The purpose of this research is to clarify history about the river in Koshigaya. Therefore, the items mentioned about the river of the history book of the area were analyzed. This research has classified history into three. 1, Time of the development and exploitation by Tokugawa. 2, Time troubled by flood damage. 3, Time which autonomous activities activated.

1. 研究背景および目的—埼玉県の南東部に位置し、千葉県と東京都にほど近い越谷市は、4つの一級河川とそれに付随する大小様々な溜池や用排水路など、豊富な水資源を有することから「水郷越谷」の愛称で親しまれた地域であった。しかし、都市化の急進に伴い、近年では水路の暗渠化がみられたり、安全管理上、河川敷へのアクセスが断たれるなど、地域住民と水辺との距離が少なからず遠ざかった事実も否めない。

一方、本市は2009(平成21)年4月1日に景観行政団体へと移行し、景観計画策定の機運が高まっている。その景観計画にあっては「水郷こしがや」の復権をめざし、市内の河川・用排水路等を活用した景観まちづくりの展開が望まれるところであるが、その具体的方策は明確になっていないのが現状である。

そこで本研究では、かつて「水郷」をうたった越谷市における今後の景観まちづくりのあり方を導くために、本稿では、本市を流れる河川とそれに付随する用排水路の歴史の変遷を明らかにすることより、本市の「水郷」としての特徴を捉えることを目的とする。

2. 調査方法—市内の初期の開発が進められたのは徳川家康による関東支配以降の時代であったとされる。本研究では越谷市史^{[1][2]}を用いて、江戸期から高度経済成長前の昭和中期までを対象とし、「河川」「用排水路」に関する記載を抽出し、越谷市の河川・用排水路の歴史の変遷を捉えていく。

3. 結果および考察—対象とした江戸期から昭和中期の河川・用排水路の歴史的事象をまとめたものが Table 1 である。以降はこれをもとに考察を行う。

(1) 開発・開拓期—徳川氏は1590(天正8)年から1733(享保18)年までの約140年間にわたり、居城江戸を水害から守るため、そして河川流域の低湿地帯を農地として活用するため、利根川の東遷や荒川の西遷を主に、用水の効率利用のための水路や溜井の造成を積極的に展開した。それにより流域の新田開発が急速に発展するだけでなく、江戸との物資運搬として舟運が発達し、水郷越谷としての発展をはじめた。

(2) 水害混迷期—上記の河川改修によって治水・農耕上の安定は保たれるも、1742(寛保2)年や1757(宝暦7)年の関東大水害にはその改修地点の堤防が決壊するなど、度重なる洪水被害に悩まされる時期が約120年にもわたった。そうした中でも、陸路の宿場町を困窮に追い込むほど舟運は盛んになるなど、河川の利便性と危険性の両面をともなった混迷の時期にあったといえる。

(3) 自治活動構築期—上記のように混迷した時期の中で明治維新を迎え、河川に関する工費が民費負担となると、民費と労働力を集約すべく連合集会や水利土功会などが水系ごとに発足するなど、河川防災・整備に関する住民の自治活動が盛んとなった。特に、昭和22年のカスリーン台風による大災害の際には、国の対応の遅れを待つことなく水防組合を設立し対策に当たるなど、戦後政策によって部落組織が解体された中でも、水系による地縁的自治体制が確立されていたのである。

4. まとめ—以上のように、越谷市の河川・用排水路の歴史は、江戸期から昭和中期までの約370年間で、開発・開拓から水害の歴史を経て、住民自治活動に発展していったことを捉えた。なかでも、都市の骨格を形成

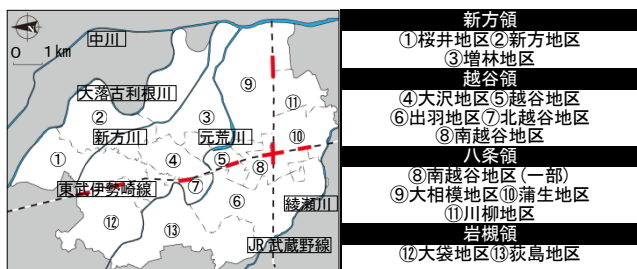


Figure1. Koshigaya city map and District area. (This is original Table my authors)

1 : 日大理工・院・不動産 2 : 日大理工・教員・建築 3 : 日大理工・教員・交通 4 : 日大理工・学部・交通

する河川とそれまつわる舟運の賑わいや、水系による強い地縁は本市の「水郷」としての特徴といえよう。

5. 参考文献

- [1] 越谷市役所：「越谷市史通史編(上)」, 越谷市教育委員会, 1975. 3. 25
- [2] 越谷市役所：「越谷市史通史編(下)」, 越谷市教育委員会, 1977. 5. 25

Table1. The history about the river in Koshigaya^{[1][2]} (This is original Table my authors)

年	元号・期	元荒川流域				写真
		古利根川流域	越谷領	綾瀬川流域	岩槻領	
1590	天正 18 年	徳川家康関東支配				
1594	文禄3年	利根川の付替				
慶長年間		瓦管根溜井, 須賀・末田溜井を開発		八条領排水路を開発		
1613	慶長 18 年	利根川が古利根川となる(Pic. 1)				Pic. 1 古利根川
1621	元和7年					
寛永年間		中島用水路が開発		綾瀬川の屈曲を直道化		
1629	寛永6年			荒川瀬替により荒川古道が元荒川となる(Pic. 3)		
1662	寛文5年			綾瀬川の流量が減少し流域の新田開発が進む		
1675	延宝3年			逆川を利根川につなぎ, 江戸舟運の便を開く		
1680				瓦管根溜井から本所上水道が開墾される		Pic. 2 瓦管根溜井
1703				谷古田用水路を開発(Pic. 4)		
1704				小管村から墨田村までの新綾瀬川が開通し, 綾瀬川が排水河川となる		
1705				綾瀬川の堰止が全面禁止となり, 綾瀬川を中心とした江戸との舟運が盛んになる		Pic. 3 元荒川
1706				大嵐により元荒川堤防が破損		
1719				関東大水害		
1725				古利根川の流路を付替		Pic. 4 谷古田用水
1730				袋山周りの元荒川の直道掘替工事が施工		
1732				上川俣に用水取水口ができ, 幸手用水に流されたことで葛西用水が葛西大用水と呼ばれるようになる(Pic. 5)		Pic. 5 葛西用水
1742				四川奉行による河川管理		
1756				中島用水路を廃止しそこを新田開発		
1772				四川奉行を廃止, 5 人の勘定奉行で河川管理		
1773				本所上水道を廃止, そこを新田開発		Pic. 6 水害状況
1790				関東大水害 新方地区に被害		
1791				関東大水害 八条領も被害		
1794				旅客の舟運輸送により宿場町が困窮したため, 河岸場が取締を受ける		Pic. 7 藤助河岸
1802				葛西大用水普請仕法, 村順年版代制となる		
1823				関東大水害, 宿々に復興拜借金が下付される		
1824				大嵐雨, 越谷地城不作		
1846				関東大水害, 越谷地城も被害を受ける		
1849				関東大水害, 越谷町は穀米 100 俵を命ぜられる		
1859				元荒川出水		
1864				関東大水害, 越谷地城も大水害		
1873				元荒川通り大水害 新方領被害甚大		
1880				河川に関する工費はすべて民費負担とするとの原則が大蔵省より布達される		
1885				葛西用水連合集会が結成		
1887				綾瀬川沿いが増水し, 水害発生		
1890				末田大用水・須賀堀用水路水利工団が発足		
1892				千間堀悪水路水利工団が発足		
1896				八条用水・四力村用水水利工団が発足		
1897				大水害発生		
1902				千住馬車鉄道敷設に水行障害を請願する		
1903				河川法制定, 大荒川が国の直轄となる		
1909				水害で川柳・大相模村が被害		
1910				葛西用水路普通水利組合が組織される		
1913				須賀堀用水路普通水利組合が組織		
1914				千間堀悪水路普通水利組合が組織		
1919				大水害発生, 被害は市城全域に及ぶ		
1921				花田用水路新設竣工		
1923				武陽水陸運送株式会社が藤助河岸に設立(Pic. 7)		Pic. 8 古利根堰
1924				用排水路幹線改良(十三河川改修)事業開始		
1929				古利根堰が改築完成する(Pic. 8)		
1933				大落古利根川の改良なる		
1947				瓦管根堰が改築完成する(Pic. 9)		Pic. 9 瓦管根堰
1948				新方領堰改修事業が完了する(Pic. 10)		
1949				カスリーン台風襲来, 利根川堤防決壊により増林・新方・桜井・大袋を中心に大水害		
1952				新方領水防組合が結成		
1959				元荒川治水同盟会が結成される		
1960				元荒川・中川総合開発連盟が結成される		
				大袋地区の簡易水道通水する		
				越谷・松伏水道組合が発足		
				越谷御殿町から瓦管根溜井に至る葛西用水と元荒川の分離工事が始まる		
				桜井地区, 新方地区, 増林地区		
				大沢地区, 越谷地区, 出羽地区, 北越谷地区, 南越谷地区		
				南越谷地区(一部), 大相模地区, 蒲生地区, 川柳地区		
				大袋地区, 荻島地区		

【凡例】 □ : 河川の形態変更, 用排水路整備 ▭ : 河川管理組織 ■ : 河川舟運 ◻ : 政策 : 取り組みの発展